

平成 26 年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成 26 年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成 26 年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の 2 とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

<アンケート質問項目>

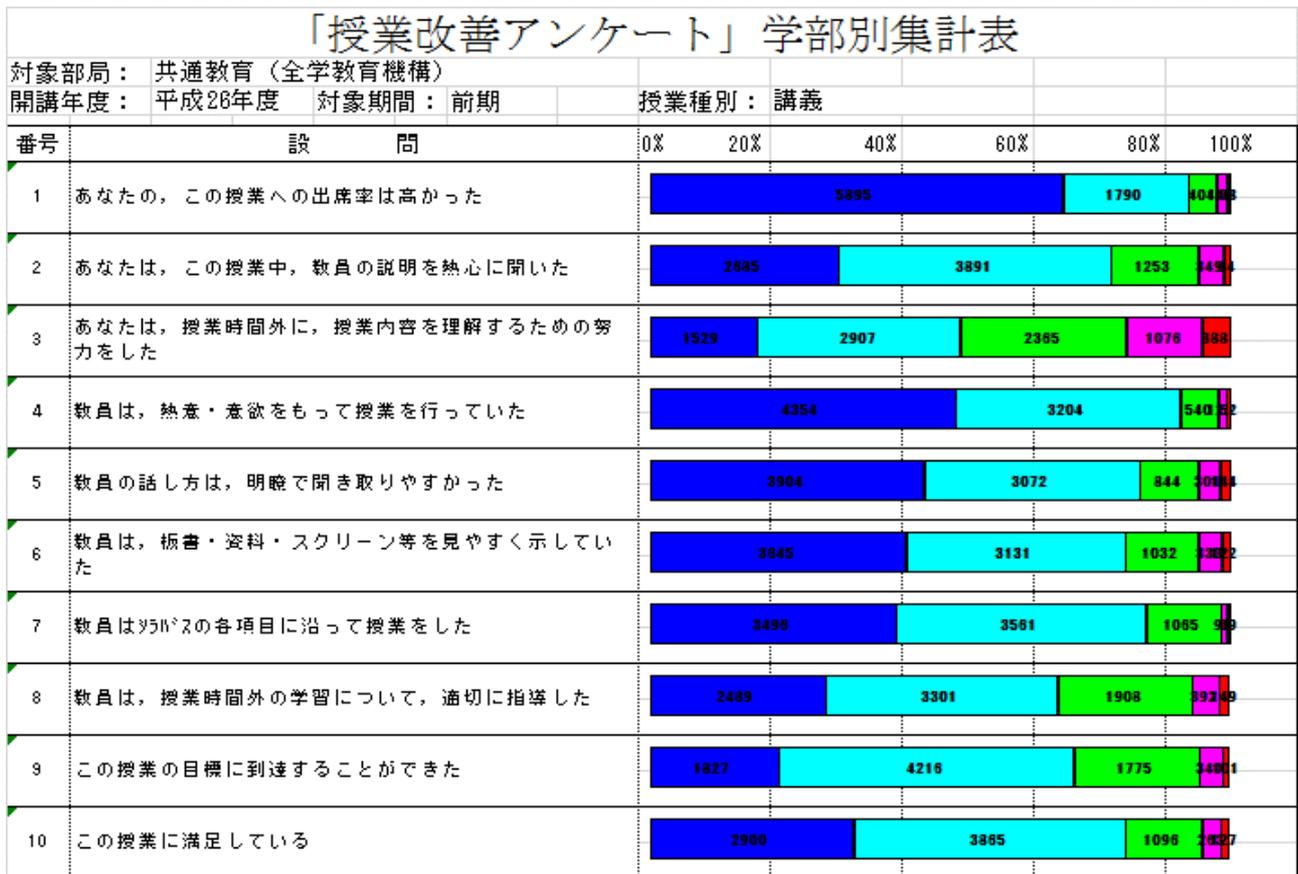
1. あなたの、この授業への出席率は高かった（5 択）
2. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた（5 択）
3. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした（予習・復習等）（5 択）
4. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた（5 択）
5. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった（5 択）
6. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた（5 択）
7. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした（5 択）
8. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した（シラバスでの参考文献の提示等）（5 択）
9. この授業の目標に到達することができた（5 択）
10. この授業に満足している（5 択）
11. この授業について、改善すべきと思う事がありましたら、書いてください（自由記述）
12. この授業について、教員が工夫をしていると思う事がありましたら、書いてください（自由記述）
13. その他、この授業について、意見、要望等がありましたら、書いてください（自由記述）

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。（用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。）

1. 全体に関する結果

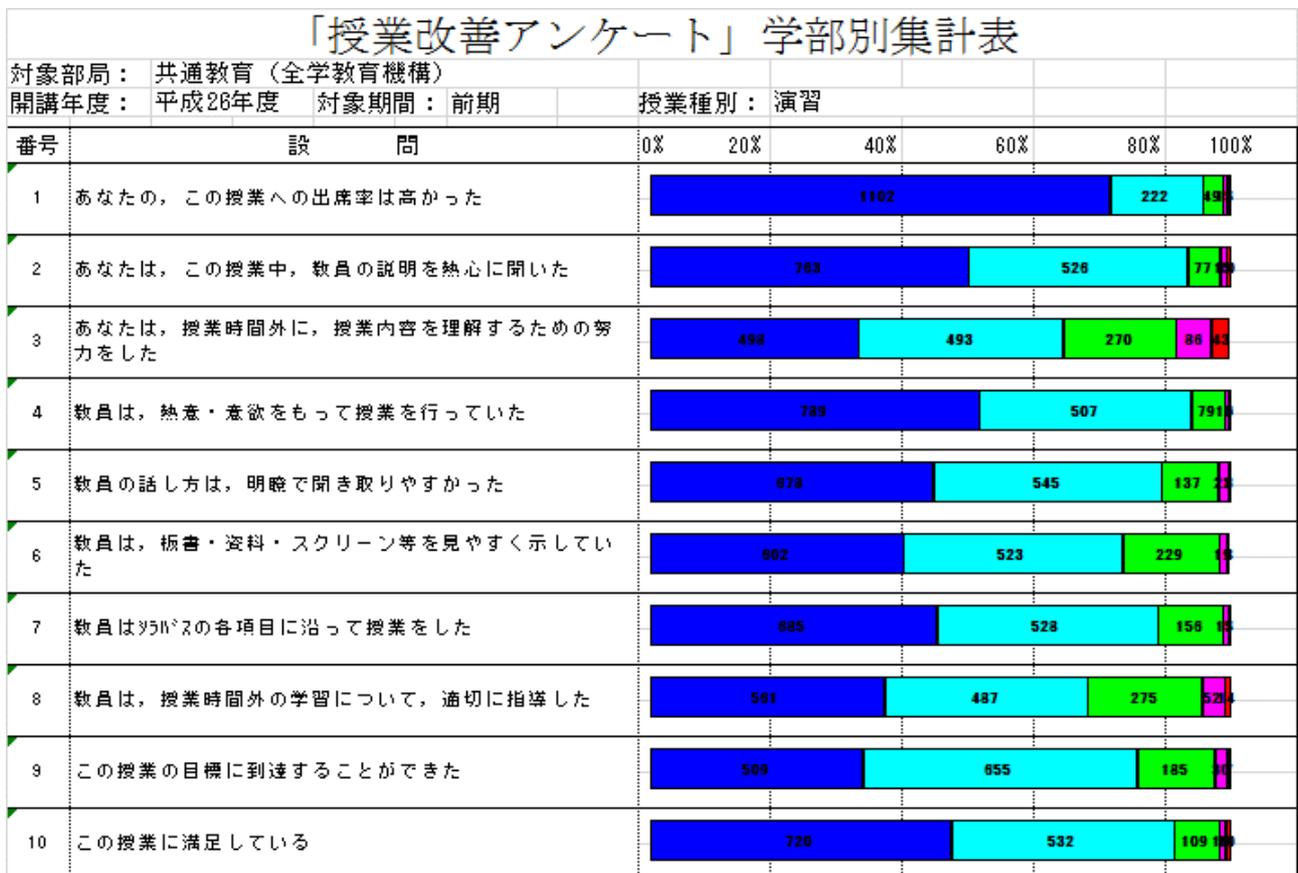
2014 年度前期の機構授業に対する授業改善アンケートの回答率は、中間アンケートの講義全体：50%、演習全体：56%、外国語全体：43%、実験全体 29%、から期末アンケートの講義全体：50%、演習全体：41%、外国語全体：46%、実験・実習全体：56%へと、講義全体は同数字、演習全体は 15%の減少、外国語全体は 3%増を示した。期末アンケートに回答した学生の数は、講義科目 8286 人、演習科目 1395 人、外国語科目 3233 人であった。比率の増減はあるものの、アンケート方法の改善により回答数は全科目においてかなり増えた。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図 1～3 の通り。

図1 【講義科目】



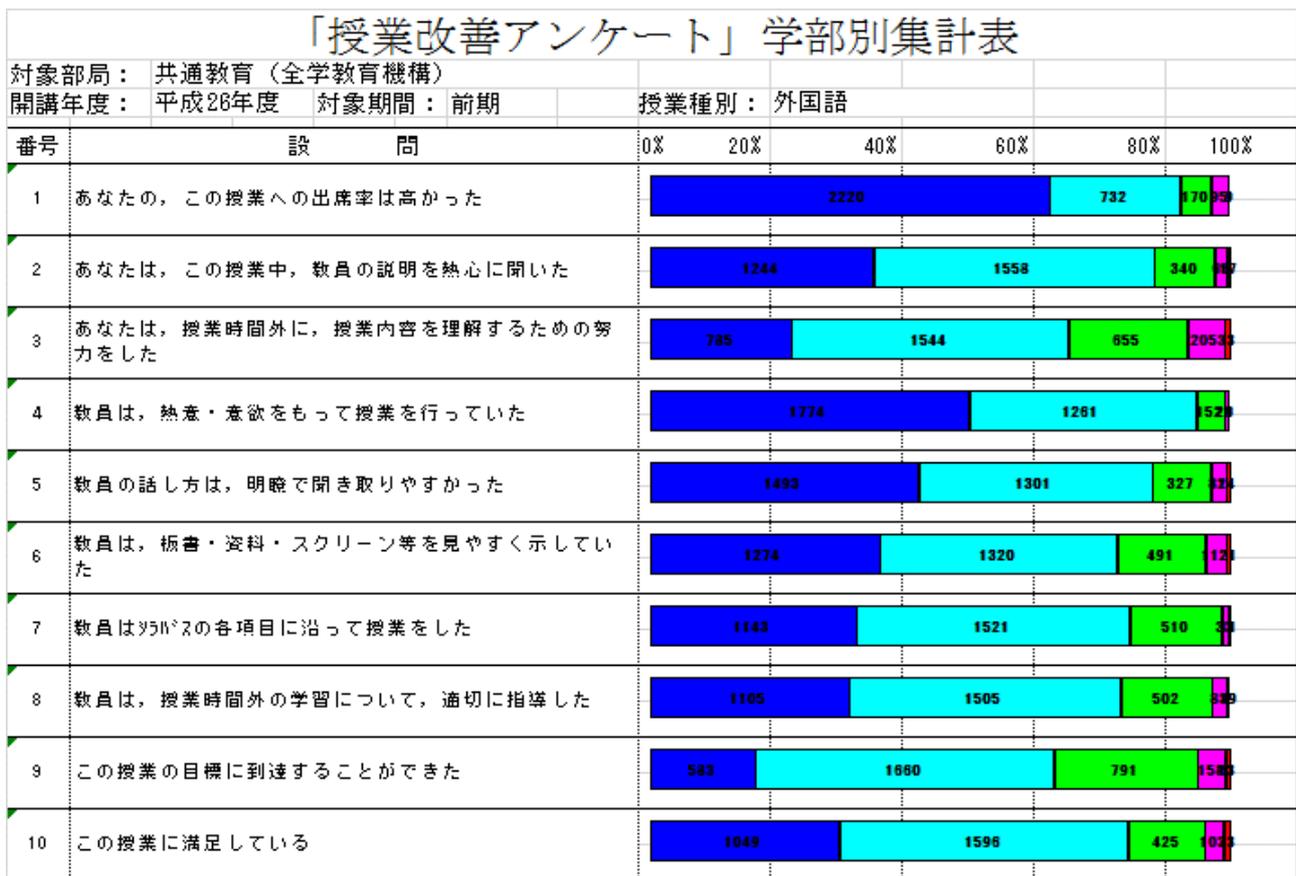
青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらとも言えない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない

図2 【演習科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらとも言えない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない

図3【外国語科目】



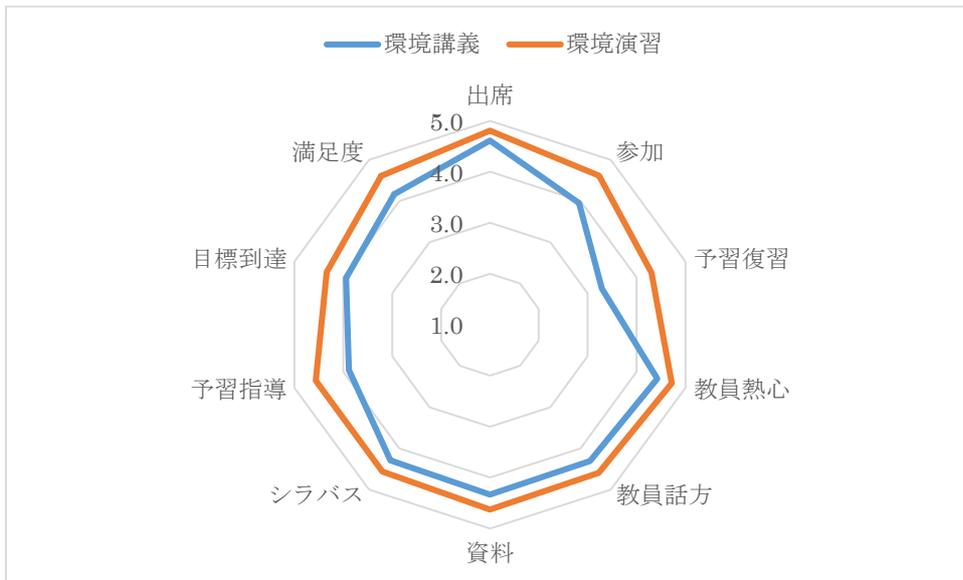
青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらとも言えない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない

2. 教養科目

〔環境科目群〕

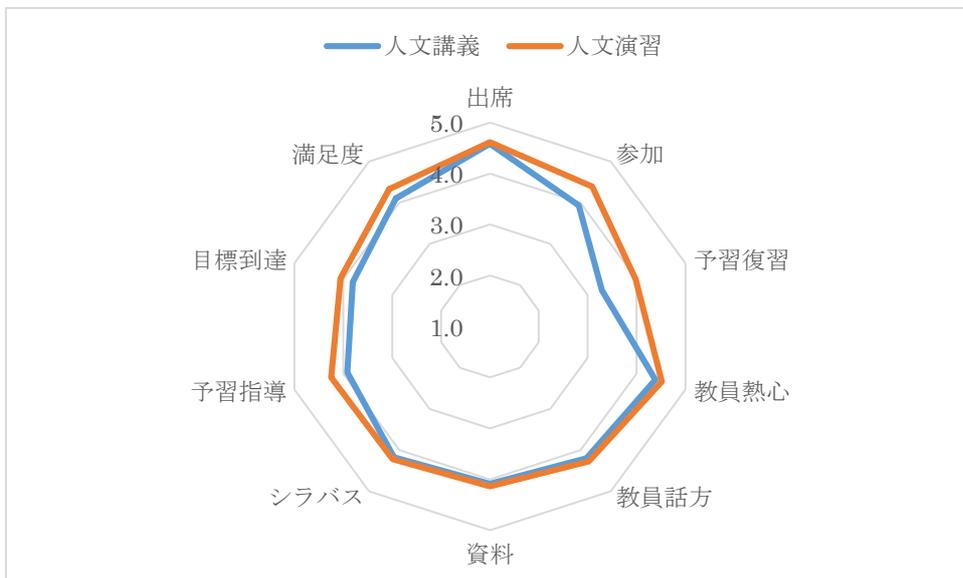
環境科目群では、全般的に講義科目と比較すると演習科目の評価項目において評価ポイントが明らかに高い。演習科目では、とくに予習および復習に関する学生の自己評価が高く、演習科目において学習意欲が高いことがうかがわれる。演習科目のすべての項目において、平成 25 年度前期の結果を上回っていることが特筆される。授業改善の努力の成果であると推定される。

講義科目においては、すべての項目の数値が演習科目を下回っているが、平成 25 年度前期の講義科目の結果と比較すると、同等かやや上回っている項目が多い。ただし、講義科目において、教員による自宅学習の指導、および学生による予習・復習に関するポイントが顕著に低く、依然として改善を要する。



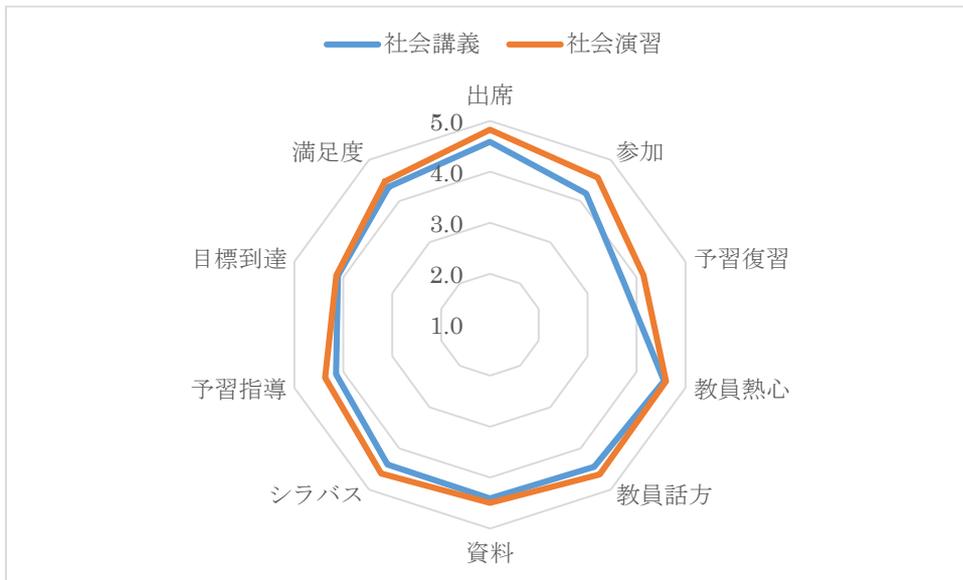
[人文科目群]

当該科目群における講義科目の総平均値は 4.05 であり、講義全体の総平均値が 4.12 であるのに比して、やや低調といえる。とりわけ、予習復習の 3.3 および予習指導の 3.9 は低いと評価せざるを得ない。この両者の結果には相関関係があるものと推測される。もっとも、中間評価における総平均値 3.99 からは改善がみられる。他方で、演習科目の総平均値は 4.28 であり、演習全体の総平均値 4.32 に比較すると低いものの、数値そのものの評価としては高いといえる。これは、演習形式における少人数教育の成果であり、また、各教員の授業改善の努力が実を結び始めている証左といえよう。



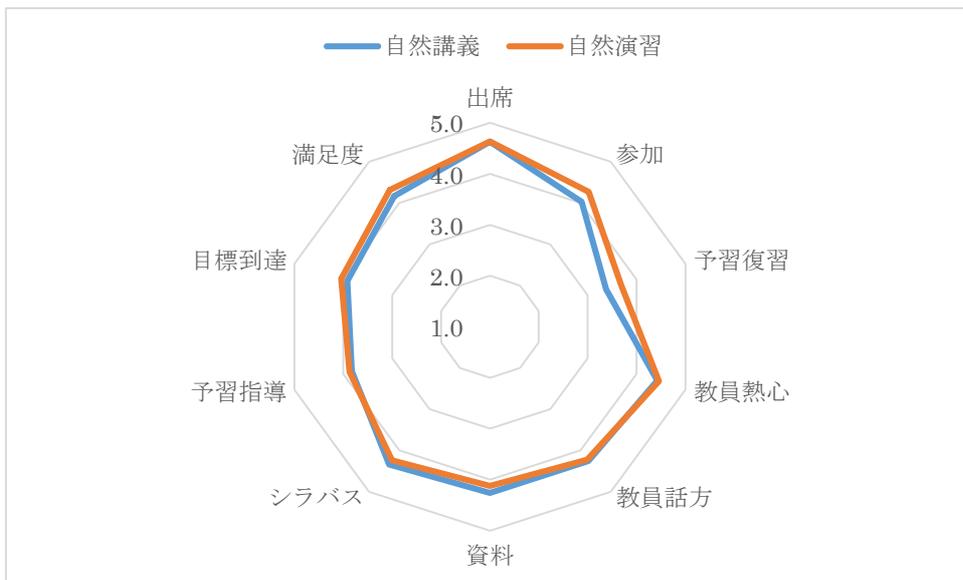
[社会科目群]

当該科目群における講義科目の総平均値は 4.29 であり、講義全体の総平均値 4.12 に比しても好調といえる。ただし、ほぼ総じて 4.0 以上の評価が得られている中で、予習復習関連の項目が 4.0 に満たないで伸び悩んでいる。学生の時間外学習は、授業での学びを深めるために不可欠であり、改善の余地があるといえる。他方で、演習科目の総平均値も 4.49 と非常に高く、演習科目全体の総平均値 4.32 と比しても高水準と評価できる。特筆すべきは、演習科目ではすべての数値が 4.0 を超えている点である。加えて、中間評価での総平均値が講義科目 4.18、演習科目 4.22 であった数値からさらに向上しており、各教員の授業改善に向けた弛まぬ努力の成果を確認することができる。



[自然科学群]

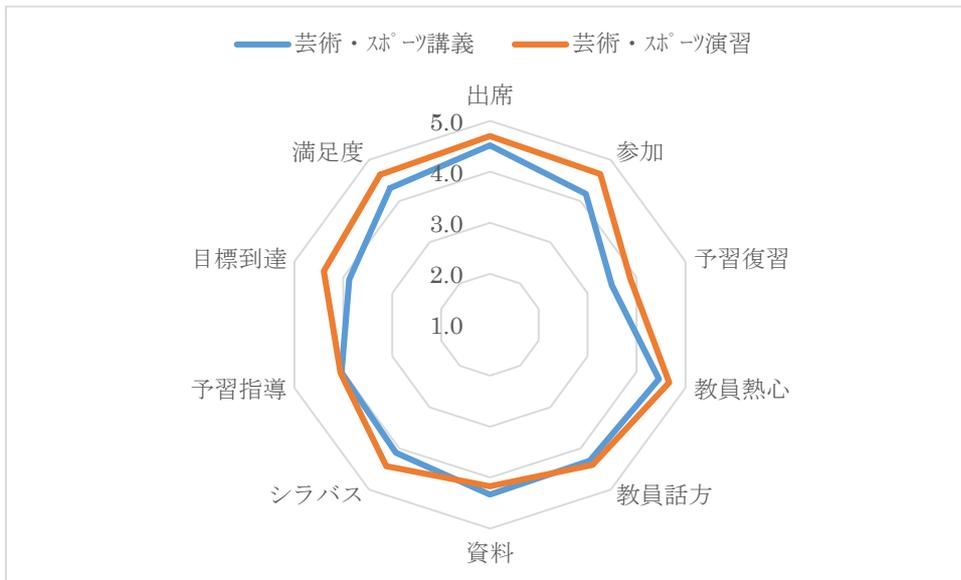
自然科学科群においては、アンケート結果は講義科目と演習科目ではほぼ同じ傾向を示す。他の科目同様、教員による予習・復習の指導、および学生の予習・復習の実施に関する数値が低い。とくに学生の予習・復習の実施に関しては、平成 25 年度前期よりも数値が低下していることが指摘される。とくに演習科目においては、前年度前期と比較して、学生の熱心さと予習・復習の実施に関する数値が明らかに下回る結果となっている。



[芸術・スポーツ群]

芸術・スポーツ群における演習科目では、全項目で全授業の平均を下回っていない。とくに、目標到達度、満足度に関して、全演習科目の平均値を上回っており、教員の努力がうかがえる結果となっている。芸術・体育演習という科目の特性により、学生の予習・復習、教員による予習・復習の指導に関する値が低く出ている点は昨年アンケート結果と同じである。

講義科目については、芸術分野で講義授業が3つ開講されているのみで、回答率も29%と低いので数値評価はしない。



3. 外国語科目

[英語]

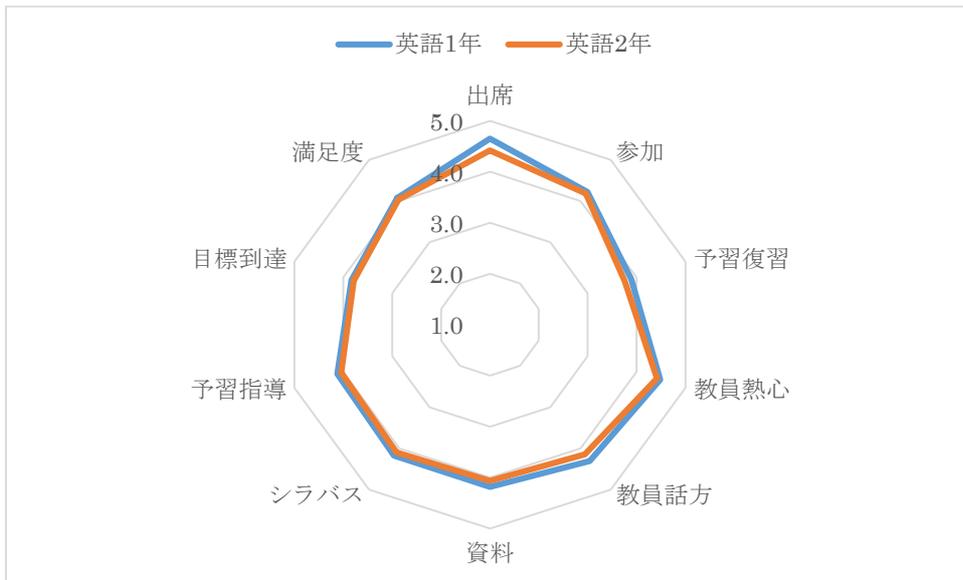
英語 1 年次総括

1. 受講生自身の評価(出席率(4.7)・熱心度(4.2))は非常に高い。そして 2. 英語 1 年次担当教員に対する評価および講義への評価も高い—教員の意欲・熱意に対する評価(教員の熱心度(4.5))・授業の進め方に対する評価(話し方の明瞭さ(4.3)・資料の見やすさ(4.2))。中間期での数値よりも、学期末期の数値は向上している。ほぼすべての項目においての高い数値より、英語科目(英語 1 年次)に対して、受講者は概ね満足していることが読み取れる(満足度(4.1))。

その一方で、満足度に比して、目標到達度が若干低い(3.8)。受講者は英語科目について授業自体には意欲的に取り組み、満足度も高いものの、講座が掲げている目標に十分に到達しきれていないことが窺い知れる。

英語 2 年次総括

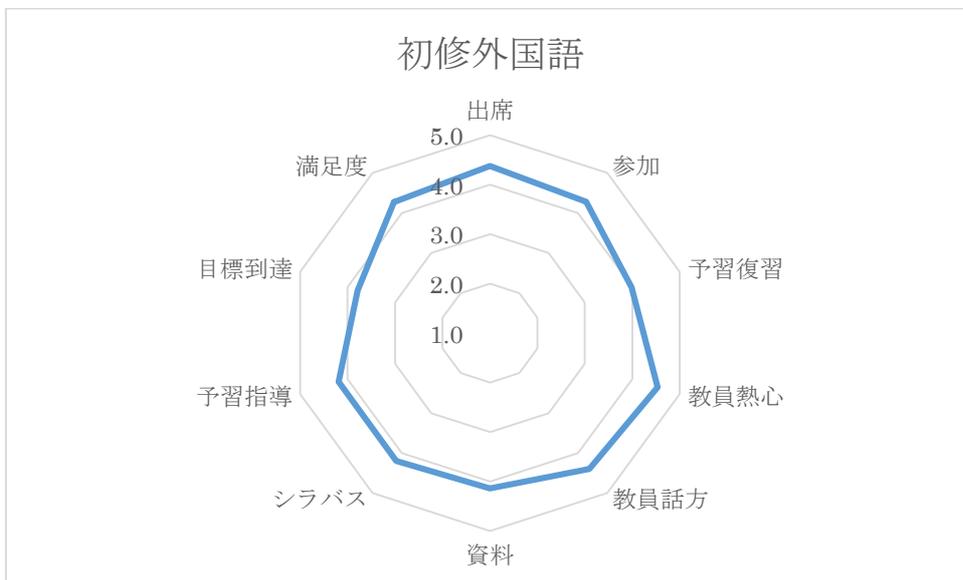
1. 受講生自身の評価(出席率(4.4)・熱心度(4.2))は高い。そして 2. 英語 2 年次担当教員に対する評価および講義への評価は、昨年度の同時期の結果よりも非常に高く向上している—教員の意欲・熱意に対する評価(教員の熱心度(4.4))・授業の進め方に対する評価(話し方の明瞭さ(4.1))。それに伴い、英語科目(英語 2 年次)に対しての満足度も、同時期の昨年度の結果よりもわずかではあるが向上している(満足度(4.0))。



[初修外国語]

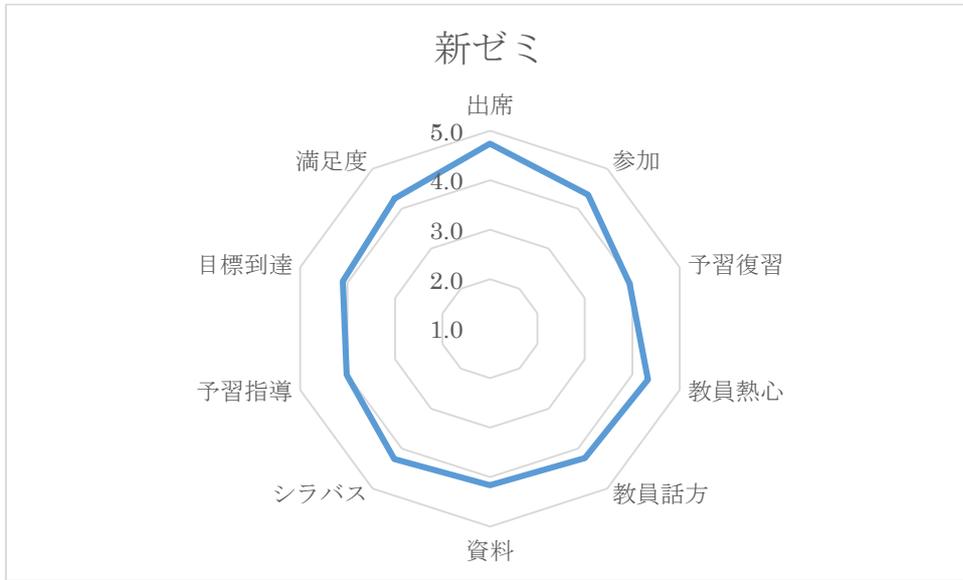
初修外国語の出席率、授業への取り組み・態度に関しては、設問 1、2、3 に対する初修外国語の数字（中間/期末）は 4.6/4.4、4.3/4.3、4.0/4.0 で、出席率が中間から期末へかけて減少している。設問 2、3 からうかがえる授業内容への積極的取り組みに関しては、4.3、4.0 で全授業における平均的数字である。

設問 4～8 の教師への評価は中間と期末でだいたい同じ結果になっている。設問 9、10 を加えた期末の結果で目立っているのは、教員の熱心度の高さと、目標到達度が低いことである。



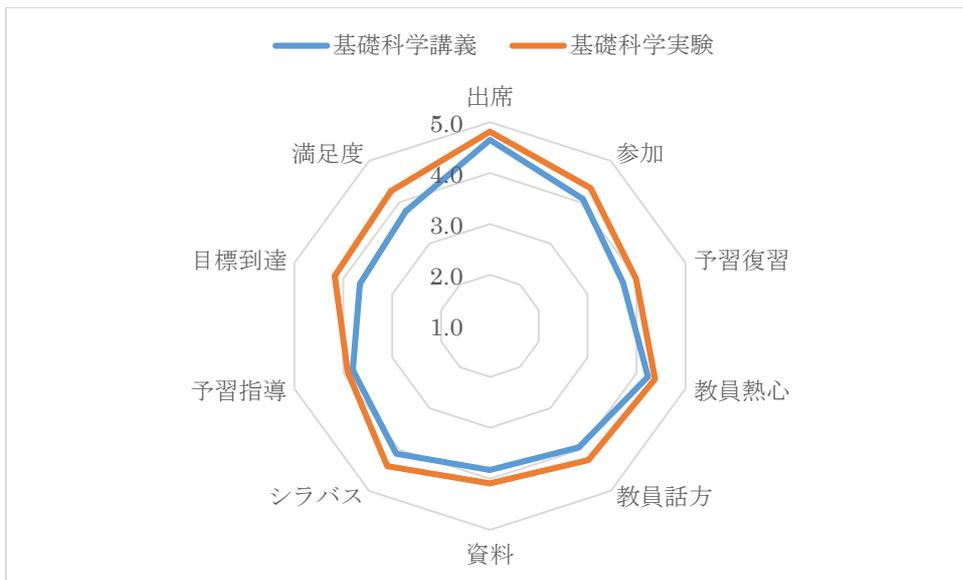
4. 新入生ゼミナール科目

新入生ゼミナール科目は、学部、学科、学系などにより、それぞれ独自の内容、形態で実施されるものであり、これを他の演習型の授業と単純に比較することは必ずしも適切ではないかもしれないが、演習型授業の中で見た場合には、どの項目も概ね平均的な評価となっている。ただし、期末アンケートの回収率は30%とやや低い。



5. 基礎科学科目

基礎科学科目の講義は、他の講義と比べて「予習復習」が高い値を示している一方、「教員熱心」「教員話方」「資料」等、教員側の項目が低く評価されている。「満足度」も全講義平均を下回っている。実験の授業は、他に比較する授業がないが、学生がよく出席しているようすが窺える。その他の項目ではとくに目立った傾向は見られていない。



6. まとめ

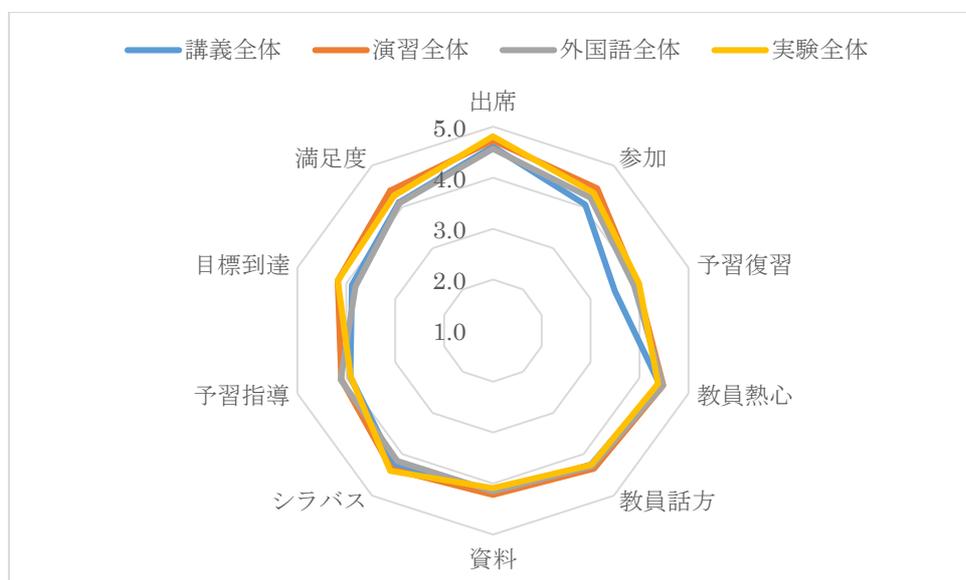
設問 1～3 の学生自身についての設問に対しては、昨年のアンケート結果と同様、出席率は全体に高いが、熱心度/予習・復習に対する数字が少し低く、授業への取り組み・態度という観点から、低く自己評価していることがうかがえる。

設問 4～10 教師への評価について述べる。設問 4 はだいたい 4.5 前後の平均で高い数字を示していて、これは、各授業で教員の伝えたい思いと学生の学びたい思いが十分に反映されていることを示していると考えられる。設問 5～7 は、環境科学演習および社会科学演習の高い数字、基礎科学講義のやや低い数字が目立っているが、他は 4.0 前後で、好結

果になっているといえるであろう。例年数字の低い設問 8 と 9 に対しては、今回の結果も低く出ている。以前から議論されることの多い予習復習指導の工夫はこれからも行っていく必要があるであろう。設問 10 の満足度は比較的高めであり、設問 9 のやや低めの結果と合わせて、学生がさらなる高い目標を目指したいという意欲が現れていると思われる。

アンケート結果に基づいて、各部門から以下の意見が出された。

環境マイนด์教育部門からは、ある 1 人の教員が合わせて 811 人の受講生を担当しているが、今後、履修抽選システムで受講生を制限することと、このような授業に対する組織的対応策の検討の必要性が述べられた。健康科学部門からは、予習・復習指導として、自宅等で簡単に行える技術的あるいは簡易的な課題を課すことで対応できるかもしれないという提案がなされた。自然科学教育部門からは、授業方針に同調しない受講生が少しいるが、要求水準が厳しいと言う意見もあるので、これは、仕方がないことであるともいえるとし、すでに実施されている数学相談室の様な上級生などによる相談の充実、大学による自習支援の環境が手厚くなされることへの要望が出された。初習外国語教育部門からは、ペア学習、グループワーク、コメントカードなどの授業実施上の工夫例が出された。人文・社会科学教育部門からは、映像視聴の際の教室照明、パワーポイント資料の書き込み欄などへの要望例が紹介された。英語教育部門からは、e-ALPS を利用した授業展開の有効性と学生からの高評価、小テスト、自学自習用教材、文法事項解説資料など授業を補う教員作成教材が学生に好評であったことなどが述べられた。



共通教育授業改善アンケート(2014前期中間)平均値一覧

集計区分	授業種別	受講登録者数 (人)	回答者数 (人)	回答率	設問1 学生の出席率	設問2 学生の熱心度	設問3 学生の 予習・復習	設問4 教員の熱心度	設問5 教員の話し方	設問6 資料の見易さ	設問7 クラスに沿った 授業	設問8 予習・復習指導
環境科学群	講義	3272	1728	53%	4.7	4.0	3.2	4.2	4.1	4.1	4.1	3.6
	演習	74	37	50%	4.8	4.5	3.9	4.5	4.2	4.3	4.2	4.0
人文科学群	講義	1774	938	53%	4.7	4.0	3.3	4.3	4.0	3.9	4.0	3.7
	演習	196	99	51%	4.8	4.6	4.2	4.6	4.4	4.3	4.3	4.3
社会科学群	講義	2945	1542	52%	4.7	4.2	3.6	4.4	4.2	4.2	4.2	3.9
	演習	284	149	52%	4.9	4.5	4.1	4.5	4.5	4.3	4.3	4.2
自然科学群	講義	2938	1435	49%	4.7	4.1	3.4	4.3	4.1	4.2	4.2	3.6
	演習	341	204	60%	4.7	4.4	3.7	4.4	4.2	4.2	4.2	3.8
芸術・スポーツ群	講義	443	246	56%	4.7	4.4	3.5	4.5	4.3	4.5	4.2	4.1
	演習	590	372	63%	4.8	4.6	3.6	4.6	4.3	3.7	4.3	3.8
外国語	英語1年	4170	2285	55%	4.8	4.3	4.0	4.4	4.2	4.0	4.1	4.0
	英語2年	1977	267	14%	4.8	4.3	3.9	4.4	4.2	4.1	4.0	4.1
	初修外国語	1042	569	55%	4.6	4.3	4.0	4.5	4.3	4.1	4.2	4.1
新入生ゼミナール	演習	2158	1189	55%	4.8	4.3	3.8	4.2	4.1	4.1	4.2	3.9
基礎科学	講義	5021	2287	46%	4.7	4.1	3.8	4.1	3.7	3.6	4.0	3.7
	実験	417	121	29%	4.9	4.4	4.0	4.2	4.0	3.9	4.3	3.7
	講義全体	16632	8399	50%	4.7	4.1	3.5	4.3	4.0	4.0	4.1	3.7
演習全体	3643	2050	56%	4.8	4.4	3.8	4.4	4.2	4.1	4.2	3.9	
外国語全体	7189	3121	43%	4.7	4.3	4.0	4.4	4.2	4.0	4.1	4.0	
実験全体	417	121	29%	4.9	4.4	4.0	4.2	4.0	3.9	4.3	3.7	

※講義全体には、アンケート実施対象外の教職科目で任意にアンケート実施された講義の人数も含まれています。

共通教育授業改善アンケート(2014前期期末)平均値一覧

集計区分	授業種別	受講登録者数 (人)	回答者数 (人)	回答率	設問1 学生の出席率	設問2 学生の熱心度	設問3 学生の 予習復習	設問4 教員の熱心度	設問5 教員の話し方	設問6 資料の見易さ	設問7 クラスに沿った 授業	設問8 予習・復習 指導	設問9 目標到達度	設問10 満足度
環境科学群	講義	3268	1705	52%	4.6	3.9	3.3	4.4	4.3	4.3	4.3	3.9	3.9	4.2
	演習	92	57	62%	4.8	4.6	4.3	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.3
人文科学群	講義	1773	740	42%	4.6	3.9	3.3	4.4	4.2	4.1	4.2	3.9	3.8	4.1
	演習	174	103	59%	4.6	4.4	4.0	4.5	4.3	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3
社会科学群	講義	2836	1672	59%	4.6	4.2	3.7	4.6	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3
	演習	251	191	76%	4.8	4.6	4.1	4.6	4.6	4.5	4.6	4.4	4.1	4.5
自然科学群	講義	2889	1478	51%	4.6	4.0	3.4	4.4	4.3	4.3	4.3	3.8	3.9	4.2
	演習	318	132	42%	4.6	4.3	3.7	4.5	4.2	4.1	4.2	3.9	4.0	4.3
芸術・スポーツ群	講義	443	129	29%	4.5	4.2	3.5	4.5	4.3	4.3	4.1	4.0	3.9	4.3
	演習	560	311	56%	4.7	4.7	3.9	4.7	4.4	4.2	4.4	4.1	4.4	4.6
外国語	英語1年	4111	2161	53%	4.7	4.2	3.9	4.5	4.3	4.2	4.2	4.1	3.8	4.1
	英語2年	1963	586	30%	4.4	4.2	3.8	4.4	4.1	4.1	4.1	4.0	3.8	4.0
	初修外国語	984	486	49%	4.4	4.3	4.0	4.5	4.4	4.1	4.2	4.2	3.8	4.3
新入生ゼミナール科目	演習	2007	601	30%	4.7	4.3	3.9	4.3	4.2	4.2	4.3	4.0	4.1	4.3
基礎科学科目	講義	4819	2143	44%	4.7	4.1	3.7	4.2	3.9	3.8	4.1	3.8	3.7	3.8
	実験	300	168	56%	4.8	4.3	4.0	4.4	4.3	4.1	4.4	3.9	4.2	4.3
講義全体		16552	8286	50%	4.6	4.1	3.5	4.4	4.2	4.2	4.3	3.9	3.9	4.1
演習全体		3402	1395	41%	4.7	4.5	3.9	4.5	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.4
外国語全体		7058	3233	46%	4.6	4.2	3.9	4.5	4.3	4.2	4.2	4.1	3.8	4.1
実験・実習全体		300	168	56%	4.8	4.3	4.0	4.4	4.3	4.1	4.4	3.9	4.2	4.3

※講義全体には、アンケート実施対象外の教職科目で任意にアンケート実施された講義の人数も含まれています。